

雲南市埋蔵文化財発掘調査支援業務共通仕様書

第1章 総則

(目的)

第1条 本仕様書は、雲南市（以下、「発注者」という。）が実施する埋蔵文化財発掘調査（以下、「発掘調査」という。）の迅速適切化並びに円滑な遂行を図ることを目的とし、その業務の一部を受託者（以下、「受注者」という。）に委託するために必要な事項を定めたものである。

(業務内容)

- 第2条 発注者は、発掘調査を行うにあたり、次の業務の中から必要な業務を発注する。
- また、業務を遂行する上で、発掘調査の特殊性、重要性を十分に認識し、正確な記録保存及び客観性の確保に努めなければならない。
- (1) 発掘作業及び現場事務所等に必要な資機材の調達、管理、設置等
 - (2) 現場作業員及び整理事業員の雇用並びに労務管理
 - (3) 調査区及び現場事務所等の保全、安全管理
 - (4) 発掘作業に必要な土木工事、測量業務
 - (5) 出土遺物の整理
 - (6) その他、発注者が指示する事項
- 2 受注者は、業務遂行にあたって本仕様書及び特記仕様書、設計図書のほか、文化財保護法及び同法施行令に基づくものとし、発注者の指示に従い実施すること。
- 3 受託者は、業務開始から終了に至る経過を記録した日誌等を作成し、業務完了後に提出しなければならない。

(用語の定義)

第3条 本仕様書に表記する用語を次のように定義する。

- 調査担当者** 発注者に所属する職員で、発掘調査の統括、指揮及び監督を行う者。現場作業期間中は現場に常駐する。
- 調査補助員** 発注者が臨時的に雇用する職員で、調査員を補助する。
- 現場代理人** 受注者に所属する正規職員で、本業務の総括、管理を担当する者。現場作業期間中は、現場に常駐する。
- 主任技術者** 受注者に所属する職員で、本業務の実施に際して必要な資格を有する者。現場代理人が兼務することができる。
- 測量補助員** 受注者に所属する職員で、調査担当者の測量補助を行う者。発掘作業の状況に応じて、現場代理人が兼務することができる。
- 現場作業員** 受注者が雇用し、現場作業に従事させる者（臨時的雇用可）。

整理作業員 受注者が雇用し、出土遺物等の整理作業を行わせる者（臨時的雇用可）。

現場事務所 発注者が現場にて作業を行なう事務所。

作業事務所 受注者が現場にて、現場管理・整理作業を行なうために設置・管理する事務所。

作業員休憩所 受注者が現場作業員のために設置・管理する休憩所。

（実施計画）

第4条 受注者は、契約締結後、速やかに発注者に提出すること。なお、様式は雲南市所定を用いること。

- （1）業務着手通知書（委託様式第1号）
- （2）業務工程表（委託様式第2号）
- （3）現場代理人の在籍証明書（委託様式第12号）
- （4）その他、発注者、受注者協議のうえ必要と認められる書類

（関係機関への手続き）

第5条 発注者が設置した施設等を、受注者が損傷した場合、受注者の責任において復旧しなければならない。

（紛争回避）

第6条 受注者は、支援業務を遂行する上で紛争が起こらないように努めなければならない。万が一紛争が起きた場合は、受注者は発注者に速やかに報告するとともに迅速に対処し、その結果を書面にて発注者に報告すること。

第2章 管理・防災等

（安全管理）

第7条 受注者は、受注者が雇用する者に係る労務管理を適切に行わなければならない。

2 受注者は、発掘作業を行なう上で、法令上必要な資格及び免許を必要とする業務を行なう場合は、必要な有資格者又は機材等を確保し、発掘作業を安全にかつ円滑に進めなければならない。

3 受注者は万が一業務遂行に影響を及ぼすと考えられる事故、災害及び身体に損傷を生じるような事故等が発生した場合は、迅速かつ適切な措置を講じるとともに、遅滞無くその状況を書面にて発注者に報告しなければならない。

（施工管理）

第8条 受注者は、業務遂行にあたり、関係法令及び規則等を遵守し、安全施工に努めなければならない。

（環境保全）

第9条 受注者は、周辺の自然及び生活環境へ悪影響を及ぼさないように努めなければならない。

2 騒音、震動、砂塵、ゴミの発生など、発掘作業に伴って発生する事項により周辺住民から苦情等が寄せられた場合は、速やかに発注者に報告する。

（現場撤去）

第10条 受注者は、現地での発掘作業の一部又は全部が終了したときは、受注者の責で仮設置したもの等を撤去した後、発注者の確認を受けなければならない。

第3章 支援業務体制

（人員体制）

第11条 受注者は業務遂行のために次の現場従事者を配置しなければならない。人員数については設計図書に示された人員数とするが、現場の状況によって人員数に変更を必要とする場合は発注者、受注者協議によって決定する。

- （1）現場代理人
- （2）主任技術者
- （3）測量補助員
- （4）現場作業員
- （5）整理作業員

2 前項に示す従事者のうち業務遂行上現場の秩序を乱し、又は近隣住民及び関係者とトラブルを起こすなど発掘調査に支障を及ぼす者があるときは、発注者は受注者に対し従事者の交代を命ずることができる。

（事務所等体制）

第12条 受注者は、基本的に次の施設の設置を行う。なお、場合によっては発注者が設置することができる。

- （1）現場事務所
- （2）作業事務所
- （3）作業員休憩所

（現場職員への連絡体制）

第13条 雨天等により現場作業を中止する場合は、発注者が受注者に通知し、受注者は受注者が雇用する職員及び再委託又は下請け業者等関係者に連絡しなければならない。

第4章 発掘作業

（準備）

第14条 現場作業・整理作業等に必要な人員は、原則受注者において確保する。

- 2 着手前に周辺住民等に周知する必要がある場合は、受注者は発注者の指示のもと必要に応じて同行するものとする。

（伐採、伐根・除草）

第15条 受注者は、調査にあたって発注者の指示があった場合は、伐採、伐根・除草を実施しなければならない。

- 2 受注者は、伐採等の範囲、方法等については発注者の指示によるものとし、隣接地に影響を与えず、埋蔵文化財を損傷することがないように配慮しなければならない。

（調査区の設定）

第16条 調査区は発注者が設定するので、受注者はその範囲を遵守しながら掘削作業をおこなうこと。

（掘削作業）

第17条 掘削作業には、表土掘削、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削がある。

表土掘削は機械又は人力により行い、その他の掘削は人力によることを原則とする。

- 2 受注者は、これら作業の特殊性・重要性を十分理解し、現場作業員に周知徹底を図るとともに、発注者の指示に従い万全の注意を払って行なうものとする。
- 3 受注者は、機械、人力を問わず、掘削を開始するにあたって、掘削の範囲、深さ、方法等について発注者の指示を受けなければならない。指示された掘削が完了したときは、速やかに発注者へ報告しなければならない。ただし、発注者の指示に基づく掘削中であっても、遺物、遺構等を検出したり、土質・色調等の変化が生じた場合には、直ちに掘削を中断し、速やかに発注者へ報告し、指示を受けなければならない。
- 4 発掘作業時間や休息、休憩時間は受注者において決定し、発注者の承諾を得ること。
- 5 土、日及び祝日、及び時間外の現場作業は原則行わない。やむを得ず実施する場合は、受注者は発注者と協議しなければならない。
- 6 雨天等により作業を中止する場合は、発注者が決定し、受注者にその旨を通知する。受注者は、現場作業員等に連絡しなければならない。

（排土・排水の処理）

第18条 掘削作業により生じた排土は、発注者が指定場所に仮置きすること。

- 2 受注者は、仮置きした排土を崩壊、飛散、流出しないよう適切に管理しなければならない。
- 3 受注者は、発掘調査中の雨水、湧水等を、発掘作業に支障をきたさないよう適切に排

水しなければならない。また、排水時には周辺住民の生活及び農作業等に影響がおよばないよう、十分に注意しなければならない。

（遺構の保護）

第19条 受注者は、遺構・遺物等が損なわれないよう必要に応じて、養生マット、シート等をかけるなどしてその保護に努めなければならない。

（遺物の取り扱い）

第20条 遺物が土中にある場合、受注者は現場作業員に対してみだりに取り上げないよう指導し、発注者の指示を受けなければならない。

2 受注者は、現場作業員に対して遺物の取り扱いについて紛失、混同、破損等がないよう十分注意するよう指導しなければならない。

3 受注者は、発注者の指示する場所、方法によって取り上げた遺物を運搬、保管しなければならない。

（記録の保管）

第21条 受注者は、作業風景等を適宜撮影し、その記録を保存すること。

（埋め戻し）

第22条 受注者は現場作業の一部又は全部が終了し、埋め戻しが必要な場合には、発注者の指示に従い実施する。

2 受注者は、発注者と十分な協議を行った上で、埋め戻しの範囲、方法等を確認し、周囲の環境保全に留意しなければならない。

第5章 整理作業

（整理作業）

第23条 受注者は、整理作業を実施するにあたって事前に作業方針、作業日程等を発注者と協議し決定する。

2 受注者は、作業を実施するにあたっては発注者の指示に従い遺物、記録類を適切に保管しなければならない。

3 整理作業時間や休息、休憩時間は受注者において決定し、発注者の承諾を得ること。

4 土、日及び祝日、及び時間外の整理作業は原則行わない。やむを得ず実施する場合は、受注者は発注者と協議しなければならない。

5 本業務を実施する場合の手順は、（1）計画・準備、（2）洗浄・乾燥、（3）選別、（4）注記、（5）接合、（6）復元、（7）仮収納、（8）台帳記入、とする。

6 受注者は、遺物の洗浄に当たっては、洗いすぎによる文様の摩滅及び破損がないよう、

十分注意を払うものとする。また、洗浄後に確認作業を行う。

- 7 受注者は、遺物の注記については、出土した遺跡名・出土位置・層位・番号・日付等を極小文字（略号）で記入する。記入する内容と位置については発注者の指示を受ける。また、注記後に確認作業を行う。
- 8 受注者は、遺物を接合・復元する場合は、方法や材料等について発注者の指示を受ける。
- 9 受注者は、遺物を遺跡名・出土位置・層位・種類等、内容物が把握できるようラベル等を貼り付け、発注者の指示した方法でコンテナ毎に仮収納する。
- 10 受注者は、仮収納した遺物を、発注者の指示した場所に搬入・保管し、本調査で作成した「遺物台帳」に仮収納の項目等、必要事項を記録する。

第6章 測量作業

（測量作業）

第24条 受注者は、作業の特殊性・重要性を十分理解し、主任技術者及び現場作業員に周知徹底を図るとともに、発注者の指示に従い万全の注意を払って行なうものとする。

（測量作業の項目）

第25条 本作業を実施する場合の項目は、次のとおりとする。

- （1）基準点測量
- （2）水準測量
- （3）地形測量
- （4）グリッド設定

（基準点測量）

第26条 基準点の座標は、世界測地系の座標を用いること。

- 2 測量点は原則として用地内に設置するものとし、視通の確保、精度の管理、後続作業の利便性を考慮して、最も適切と判断される箇所に設置する。

（水準測量）

第27条 水準測量は、既知点（国家水準点等）又は本調査対象区域が所在する自治体管轄の公共水準点を与点として実施すること。なお、発注者との協議により、水準観測の成果を利用することがある。

- 2 仮BMの設置については、発注者の指示する地点に設置するものとし、原則として調査が終了するまで仮BMを保護しなければならない。
- 3 受注者は、点検測量を必要とする場合、早急に測量若しくは発注者の指示を受けなければならない。

（地形測量）

第28条 地形測量は、発掘調査前と終了時に行なう。

- 2 受注者は、地形測量作業を実施するに当たり発注者と事前に現地踏査を行うこと。
- 3 受注者は、光波測量機器等を用いて地形測量を実施すること。
- 4 等高線間隔は、発注者の指示するところによるものとする。
- 5 地形測量面積は、設計図書に準拠すること。

（グリッド設定）

第29条 本作業は、遺構や遺物の出土位置等を表す基準枠となるグリッドを設定する作業である。

- 2 受注者は、原則として調査区内に基準点の座標に即して、発注者の指示する間隔にグリッド杭を打設すること。
- 3 受注者は、グリッド杭にグリッド名を表記する。その内容は発注者の指示による。

第7章 図化作業

（図化作業の項目）

第30条 本作業を実施する場合の項目は、次のとおりとする。

- （1）図化作業
- （2）データ変換
- （3）編集
- （4）出力・製本

（作成図面）

第31条 受注者は測量データを、必要に応じて図化すること。

（図化作業の実施）

第32条 図面縮尺等については発注者が指定する。

（データ変換）

第33条 受注者は、必要に応じて図面データの形式を変換すること。

（編集）

第34条 縮尺、等高線間隔、描線の種類、レイアウト等については発注者から指示をする。

（出力・製本）

第35条 図面の詳細と表紙の体裁及び製本形式については発注者の指示による。

（校正）

第36条 受注者は工程毎に校正した各図面を発注者に提出し、確認を受ける。なお、校正は計3回程度行なう。

2 校正段階で発注者の指摘により訂正及び加筆、削除等が生じた場合は、受注者は速やかに修正し、発注者の再確認を受けなければならない。

第8章 納入成果品

（納入成果品）

第37条 本業務における納入成果品は、別表のとおり（1）発掘調査成果品、（2）発掘作業成果品、（3）整理作業成果品とする。なお、発掘調査成果品の納期は作業終了後、10日以内とする。ただし、特別な事情がある場合は発注者、受注者協議のうえ延期することができる。

（不備、不具合等への対応）

第38条 検査後において受注者に起因する不備、不具合等が認められた場合は、受注者の責任においてこれを訂正しなければならない。

（成果品の帰属）

第39条 本業務における成果品は全て発注者に帰属し、受注者は発注者の許可なく他に公表、貸与又は使用してはならない。

（成果品保管）

第40条 納入成果品は、発注者が指示するまで受注者の責任において良好な管理下で無償で保管すること。

（後片付け）

第41条 受注者は作業終了後、原状回復に努めなければならない。

第9章 公開

（見学者）

第42条 発注者が許可した見学者等がある場合は、受注者はこれに協力するものとする。

（市民現地説明会等）

第43条 発注者が一般市民等を対象に現地説明会を開催する場合、受注者は、遺構等を

良好な状態で公開するために、必要に応じて排水、清掃、誘導等を行なうとともに見学者の安全対策を講じなければならない。

第10章 委託料の支払及び業務報告等

（委託料の支払）

第44条 原則、業務完了後に支払うものとする。

2 発注者は、受注者の請求書の提出を受けて支払う。

（業務報告及び検査等）

第45条 受注者は、全業務終了時には、業務完了届（委託様式第20号）を提出し、現場にて発注者が立会いのうえ検査を受けるものとする。

2 受注者は、検査を受けるにあたって発注者の指示に従い必要な資料等を提出しなければならない。

第11章 その他

（守秘義務）

第46条 受注者は本業務中に知り得た個人情報及び調査に関わる情報を第三者に漏らしはならない。

（設計変更等）

第47条 設計に係る数量変更等については、発注者の積算方法により変更するものとする。

（その他）

第48条 委託契約書、仕様書及び設計図書等に記載のない事項が生じた場合は、その都度発注者と受注者で協議して決める。

（以下余白）

別表（第 37 条関係）

納入成果品一覧表

1 発掘調査成果品

※本調査における成果品該当項目は右欄の○印

N o	成果品名	形態	数量	備考	該当 ○印
1	遺跡位置図	文書綴り	1 部		○
2	数量管理資料 【計算書等】 ・数量総括表 ・調査面積計算書 ・掘削面積計算書 ・表土、遺物包含層土量計算書 ・遺構土量計算書 ・トレンチ、下層確認調査等計算書 ・整地面積計算書 【月報・日報】 ・作業日報 ・作業月報 ・掘削土量計算のための測量簿 【備品等報告書】 ・現場事務所等備品納品完了報告書 ・現場事務所等備品撤収完了報告書 【図面】 ・調査面積図 ・掘削面積図 ・地区割図 ・トレンチ、下層確認調査面積図 ・整地範囲図	文書綴り	1 部	必要時のみ 随時提出 随時提出 随時提出 随時提出 随時提出 測点及び点名を明記 遺構、トレンチ番号等を明記 位置、範囲、総面積を明記	○
3	業務報告資料 ・仮設事務所設置位置図 ・排土運搬図 ・産業廃棄物処理報告 ・その他資料	文書綴り	1 部	運搬経路と排土置き場を明記	○
4	施工管理写真	文書綴り	1 部		○
5	安全管理資料	文書綴り	1 部		○
6	測量成果簿 ・基準点測量 ・水準測量 ・作業写真 ・機器検定証明書 ・その他の資料	文書綴り	1 部	調査区全体図に範囲と面積を付記	
7	打合せ記録	文書綴り	1 式		○
8	その他、発注者の指示する成果物	文書綴り	1 式		○

2 発掘作業成果品

※本整理における成果品該当項目は右欄の○印

No	成果品名	形態 媒体	データ形式	数量	備考	該当 ○印
1	地形測量図	製本 DVD	DWG 及び A I	1 式	製本はハードケース入り	
2	調査区設定図	製本 DVD	DWG 及び A I	1 式	製本はハードケース入り	
3	調査区割付図	製本 DVD	DWG 及び A I	1 式	製本はハードケース入り	
4	調査区全体図	製本 DVD	DWG 及び A I	1 式	製本はハードケース入り	○
5	調査区全体図 分割図	製本 DVD	DWG 及び A I	1 式	製本はハードケース入り	○
6	測量用に撮影した写真等	フィルム、DVD	JPEG	1 式		
7	台帳類	文書綴り、DVD	XLS	1 式		
8	その他発注者が指示する 成果物					○

3 整理作業成果品

※本整理における成果品該当項目は右欄の○印

No	成果品名	形態 媒体	データ形式	数量	備考	該当 ○印
1	台帳・月報・日報 類	文書綴り	XLS	1 式		
2	その他発注者が指示する 成果物			1 式		
3	遺物			1 式	コンテナに収納	